

校長先生のあのね帳 7月29日(水) N0132

続 タクシーの運転手さん

8月を目前にしてもまだ梅雨が明けないようで、雨の日が多くて困っています。駅の改札から学校までの道のりを歩くことがしんどくて、晴れた日は駅前から学校まで自転車を使って通勤しています。(多くの人が徒歩10分の距離です。)

ところが、雨が強く降ると自転車は使えません。また、傘をさして歩くと通常よりもしんどくなってしまいます。そのため、一つ手前の駅で下車してタクシーに乗り、学校へ来る日が増えてきました。今回はそのような日に乗ったタクシーでの出来事を紹介します。

7月のある日、私は右手に大きな傘を持ち、左手に鞆を2つ持ってタクシー乗り場に向かっていました。この両手の荷物の量(重さ)は現在の私の体力の許容量を超えています。ですから、運転手さんにはよたよたと歩いてくる私の姿が見えていたと思われます。

後ろ側のドアが開き、タクシーに乗り込もうとしました。荷物が多い時、私はこの瞬間が最も緊張します。それはうまく荷物を車内に持ち込めるか不安だからです。このときもそうでした。そのときでした。運転手さんは何気なくおっしゃったのです。

「ゆっくりどうぞ。」

この一言は私には魔法の言葉に感じられ、なんと！荷物を入れたり、傘をたたんだり、すんなり座席に座れたりしたのです。もう信じられないぐらいでした。車は出発し、文化会館あたりまで会話もせず、汗を拭いたり買ってきた水を飲んだりして息を整えていました。

そして、信号待ちの時、思い切ってタクシーの運転手さんに聞いてみました。

「さっき、私が車内に乗り込もうとしたときにかけて下さった運転手さんの一言がとてうれしかったのです。」

「えっ？そうなんですか？喜んでいただけたならいいんですが、私は何て言いましたか？」これで、あの一言は作為的ではないことがわかりました。

つまり、**運転手さんの素の言葉、言い換えると、人間性が自然とにじみ出た一言だったのです。**だから、私には魔法の言葉のように感じられたのかもしれませんが。運転手さんは「そのようにおっしゃってもらえて、こちらこそありがたいですし、うれしいです。励みになります。」

と話してくださいました。

以前、このあのね帳(N064)で、別のタクシーの運転手さんの一言を紹介しました。そのときも、今回も、本当に心がほこほこしてくる感じがしました。

私も人の心を温めるような言葉を話しているのだろうか。そう考えると、自信が今一つ持てないところがいけません。今日から、自分の言葉をふりかえり、見直してみます。